

(雜 錄) ○メカチキの「ペンネラ」

よく匍つて居て刺すことがある。又信州などの山地に行くと落葉松などの下にエゾアカヤマアリ (*Formica rufa truncicola* var. *gessousus* FOREL) の巢があつて其の中に踏み込んだら最後續々と足を登つて噛みつくのに弱らせられる。然しこの場合には刺すのではない、只噛み附くばかりだから大して痛は感じない。兎に角蜂程に劇しく刺すことはないから人體に對する直接の害としては云ふに足りないものと思つて居た。然るに昨年六月頃栃木縣の新聞を見ると蟻が嬰兒を盲にしたと云ふ記事があつたので、早速其を診察した栃木縣芳賀郡眞岡町の眼科醫織田玄吾氏に其の病狀の通知と、若しあれば其の蟻の標本を送つて貰ふことを依頼した其の返事の大略を次に載せる。

『該患者は赤貧洗ふが如き賤家に生れたる生後二十二日三日の嬰女にして、父は出稼にて不在中、母は六才なる男兒を連れ、床上に眠れる赤子を其のまゝに他出し、三時間半後歸宅せるに、數百千の蟻は黒山の如く赤兒の顔面・眼球・眼瞼・鼻孔・口唇・耳孔等に附着せり。診断せるは已に四時間後にて左右の眼球白色に變じ、翌日は角膜潰瘍に罹り居れり、之蟻酸中毒の爲なり。身體甚しく疲勞せり。後數日にして濃瘍に變じ、今日にては生命のみは助かりたるも兩眼共に明暗を辨する位なり。』(後略)

尙加害せし蟻の標本數疋を送られたのを檢すると、トビロケヤリ (*Lasius niger*) であつた、或は其の變種か

とも思ふけれども標本が少くて確かめることは出来なかつたが、何れにしても大した差のないものである。蟻が獸類を害することは熱帯ではあることであるし、内地でも犬の兒などに蟻がたかむことがあるから不思議はないとしても、餘り聞かない例のやうだから茲に記して置く。他に若し類例があれば御通知を得たい。(矢野宗幹)

●メカチキの「ペンネラ」

今年三月十三日、房州産のメカチキに寄生して居たといふ大きな「ペンネラ」の標本を二個得た。是は二個共頭部が無くて不完全であるから、何れ完全な標本を得てからと思つて居たが、まだそれが手に入らぬ故、取あへず其不完全な標本に就て報告をして置く。

測定表は下の如くである。

| | 標本 I | 標本 II |
|----------------|-------|-------|
| 頸部の長さ(前端切れたる儘) | 一六・〇糎 | 一七・五糎 |
| 同 幅(中央部に於る) | 二・五糎 | 二・八糎 |
| 生殖節の長さ | 六・一糎 | 五・八糎 |
| 同 幅(中央部に於る) | 五・〇糎 | 五・〇糎 |
| 後胸部の長さ | 三・一糎 | 三・八糎 |
| 同 幅(中央部に於る) | 三・〇糎 | 二・八糎 |
| 卵糸の長さ | ?(破損) | 同 上 |
| 同 幅 | 約〇・五糎 | 約〇・五糎 |

頸部は比較的非常に長いが、其全長を通じて殆ど同幅である。生殖節も全長殆ど同幅。唯、後胴部は、基部から後端の方向に向つて次第に少しく細くなつて居るが、併しそれも甚しく細くなる事はない。後胴部の先端には、左右に、各一個宛の瘤状突起があるが、(I)の標本では、此突起は著しく不鮮明で、唯其痕跡を示して居るのみである。頸部と生殖節との堺は多少明瞭である。生殖節に於る環節状構造は頗る不鮮明、殊に背面に於ては殆ど夫が失はれて居る。後胴部、殊に其の後方の部分に於ては、同様の構造が稍明かに表はれて居る。絲状突起は長さ約一糎で、幾分か分岐し、房状になつて居る。頸部の前方ではクチクラは比較的薄いが、後方の生殖節に近い部では非常に厚く、其厚さ〇八耗位に迄なつて居る。生殖節のクチクラも、背面は殆ど之と同様の厚さを持つて居るが、腹面は少しく薄い。

標本を持つて来た場合、生の者に就て見た處によると、頸部は、其の内にある血(?)の爲か、赤褐色を呈して居たが、夫より後方の體の部分及絲状突起は黒褐色、クチクラは薄い黄褐色で透明、卵糸もクチクラと略ぼ同様の色を示して居た。頸部の切口から出る赤褐色の液を檢鏡したが、血球は見えなかつた。

採集者の言ふ處に據ると——宿主は、體重六十貫位の大きなメカチキで、「ペンネラ」は、其の第一腎鱗の後端の少しく上方、側線の少しく下方に、二個一緒に寄生し

て居た。「ペンネラ」の寄生して居た附近の筋肉は、白味を帯びて、著しく他の部と外觀を異にし、多少ふやけたやうになつて居た。寄生蟲を引抜く折に、頸部はちぎれ、其切口から、比較的多量の血が流れ出た。大底の種類のカチキには寄生蟲(「ペンネラ」)が居るが、併しながら、それは、何れの個體には見出されるといふ譯ではない。又、寄生蟲は、一般に、比較的薄い皮膚を持つて居るメカチキに多く、他の、厚い皮膚の種類には割合に少ない。尙ほ、寄生場所は、體の後方が多く、前方は少ない。

今回の標本を、曾て報告した事のある(本誌三二七號照參)マンバウの「ペンネラ」と比較するに、大體の形狀及色彩等は兩者互に相類似して居るが、尙ほ、下のやうな諸點に於て、多少の相違を示して居る。

(I) メカチキの者はマンバウの者に比し、一般の體形著しく大である。

(II) マンバウの者では頸部の長さが生殖節の長さに比して殆ど同じであるか、或は僅に大きいのみであるに反し、メカチキの者では、前者は後者の殆ど三倍或はそれ以上になつて居る。

(III) メカチキの者では、生殖節の環節状構造が、マンバウの者に比し、著しく不鮮明である。

上に記述したメカチキの「ペンネラ」が、果して *Pennella orthugoris* と同一のものであるや否やに就ては、今は勿論何等の確定を與へる事ができぬ。(石井重美)